

八笑人等四編

下

13  
3094  
10



へ13  
3094  
10

甲  
三  
井  
堂

八笑人四篇

高田乃里螢狩結巻

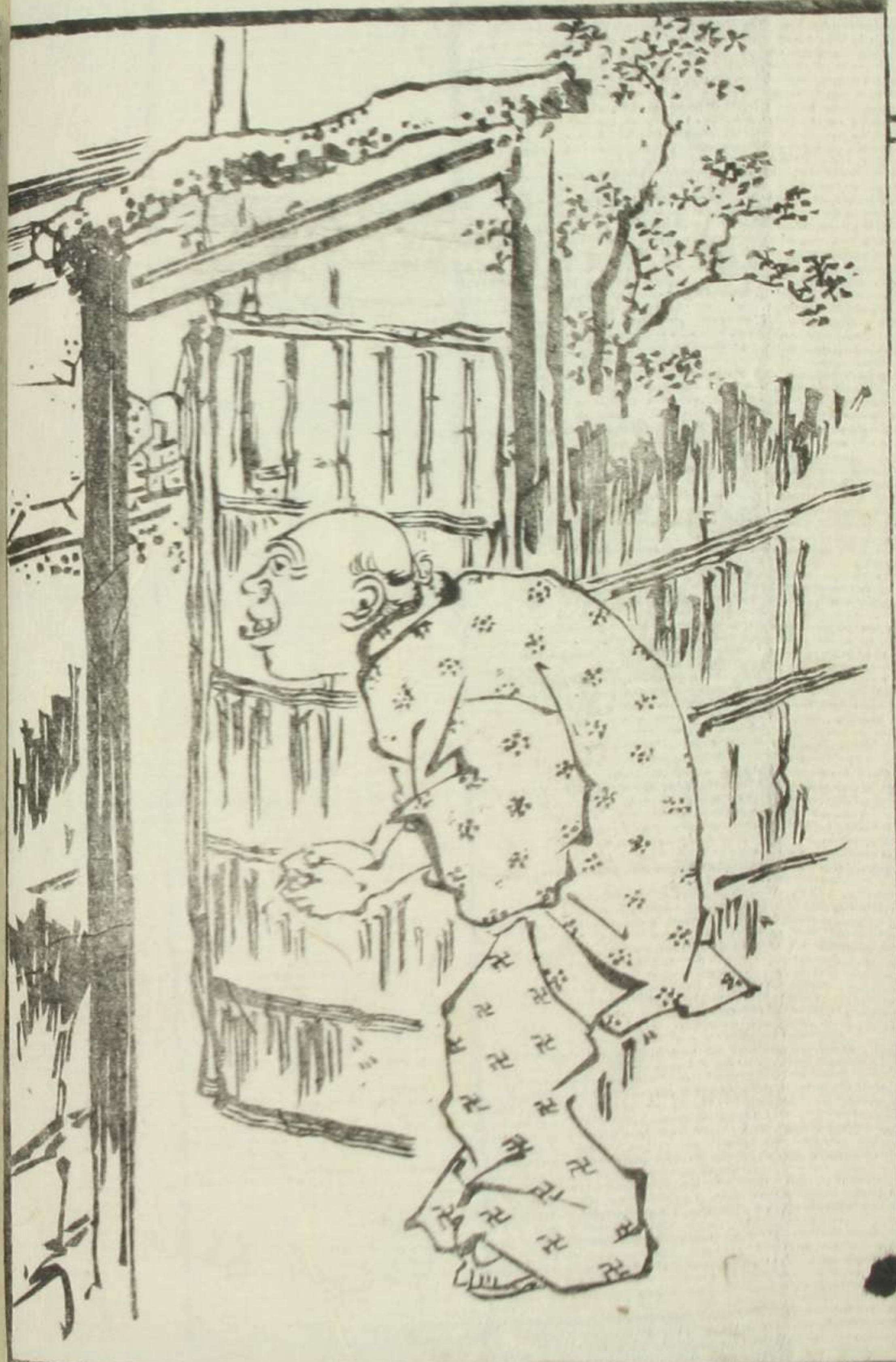
御入りの美艷仙女香  
世に云ひおきいれぬのよき  
糸巻くし南傳り三丁め  
いさなり新なり  
坂本氏製

八笑人四篇













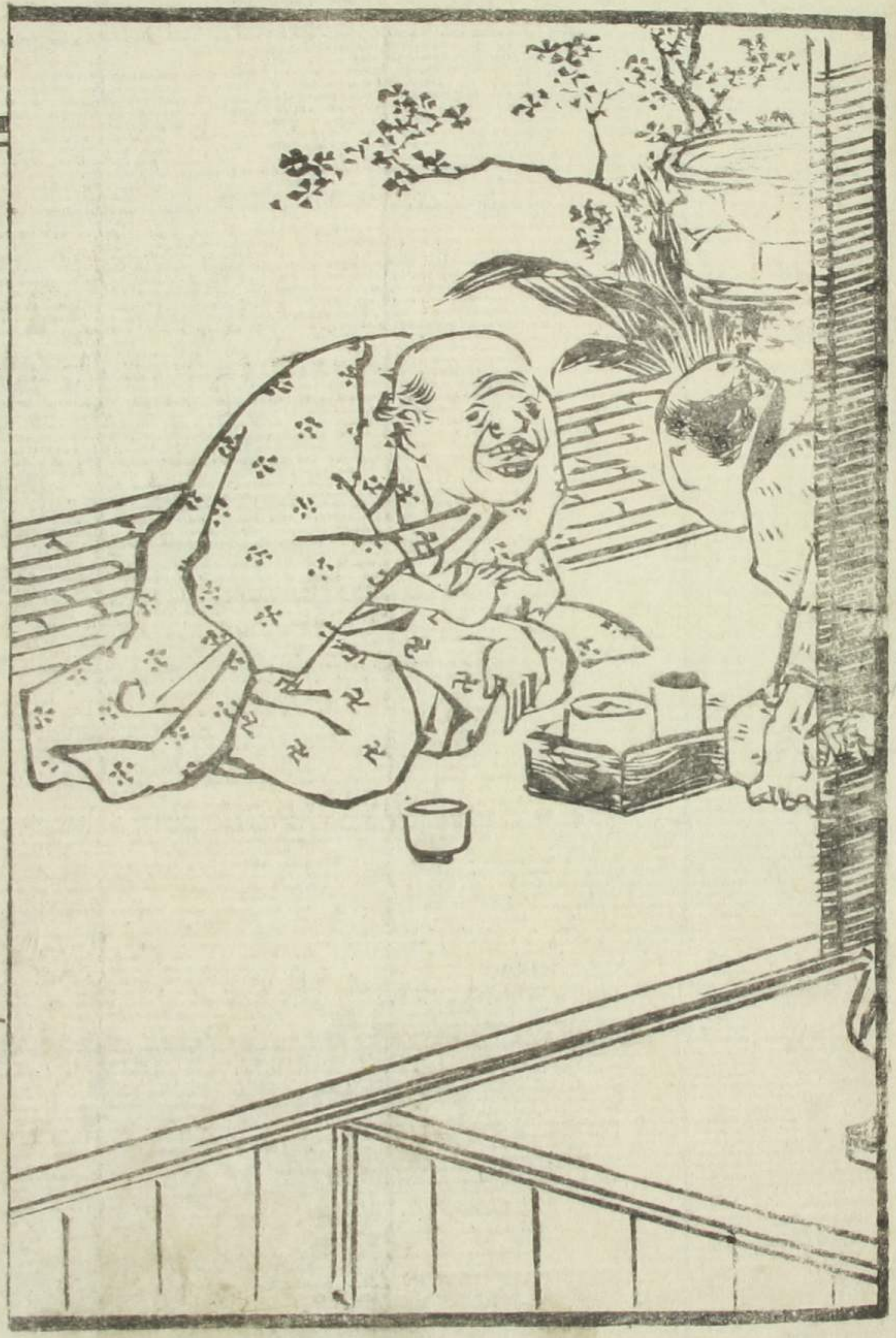












此若もでもむざりもしくうナ左ニハるみサそふりみ口はどの  
 おざりやせんがアアくそんなか育たぬでもいとてライ  
 眼公。アそんなを呼ッ。殺をうつとんふ 眼「時ふん  
 るそこぶ秘入うちふ少く内候あつと先今度の高田の  
 養務も。まこくくはなえどが。かめ入のいひある通の。養務  
 出方人もあ。このつと場所をかくも。ひきまうとくうら  
 筋をたえこが。まき酒屋のうちをひつからぬとせむと  
 と腹ゆもたれば。舞居の身かちと。折う金まのあ

其居をほとめおんがむくう。まひそのかり中た高  
 田をといある。子正勢乃屋の旦那 貸「左やうく。ぞあ  
 がやのこまむくおひります。イヤ今を私も。一生けんめい  
 敷代清き身をままを屋捕標のるもる物入の感  
 ませんら。かひ悪くむくづく。眼「そまどぐ  
 せんあふわと相候すと名め。あか屋おの奥といえ  
 だう。定九郎と勘平のまきむりゆつ。後刻かめんどう  
 づら。勢乃屋の旦那が名ど。かま入を勉免。まこくを









八女入四編下

十五



八女入四編下

十五



ちりきりしくあう。人さあをわんそまやうりきせん。  
 あめがんとまをけ友の儀もよろしう。わりのそやまは 卒ハレ  
 しやモウちりきる通り。四かもまをとりまさと。老母ゆり  
 ままのど。実お持参りし。左ハ引そんおはまらぬへを  
 ちりきり。あちのま後をよろしう。モシ質もあさん  
 おまさん其格おあし。年のおもひし。しうりおあ後を  
 出来やせん。まづゆるりとおあぬあひぐあまら。おあぬ  
 おあぬ。まらぬと。しうらんか。根が下までいぬまら

くら。氣をはめと。えんと相後ぬあがきやせん 卒八ハ左振  
 く。解りへもく。あし。く。ずとやて。どあも赤とみせん  
 じ。りそ氣がはまる。香七ハあんのりう。く。あやがる  
 ぬ。りそ香のしまる。とりあはら。のあちると歯がひらえん  
 である。卒八ハナゼ。そのそ。で氣をはめし。はのり。香七ハ  
 くもぬが。ア氣のちる。し人の度せ。うちが。しりあら。  
 そのく。あの外をあら。ア労症の氣は。ひら。まら。く。  
 卒八ハそぬあし。香七ハ引。り。まら。とそぬあし。ア引







八段ノ入

四十一



八段ノ入

四十一









戲作者 瀧亭鯉丈著

浮世画師 溪齋英泉画

文政十一年戊子孟春蒞販

江戸 馬喰町二丁目 西村屋與 八

書房 弥左卫門町 大島屋傳右衛門



揚太真遺傳 精製桐の箱入 處女香 一廻り 百二十文

そのくし... 江戸... 揚太真遺傳... 精製桐の箱入... 處女香... 一廻り... 百二十文

所弘賣

色白と搦のどく有り二里月ひらり何種不荒症の肌目も  
羽二重の清のと死手清うとするのさび。母死び。そばにて。後物  
の次。志そのおしゆ清く清くするありくると結合。物記て教を  
洗ひこの玉粧多紙その逆さる。世も白粉と付る粉身もさるくど  
自他奈良の白くうる。死指すられの娘車方の余不及事。道は方ど  
用ひても目にさびと笑くさる。製法ゆゑは難ひる。道月ひたされ  
眞の美人とありゆへ。――

為永春水精削

髪髪の髪と髪一髪やう髪き髪 妙妙業業 初初みみ少少るる玉玉

このまじりの髪を洗つたの  
あひりともあうりくくさる  
そのうり有 代三十六文

書物并繪入讀本所

江戸京橋弥左衛門町東側中程  
文永堂 大嶋屋傳右衛門



